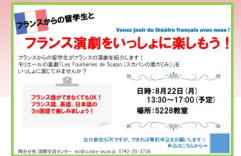


国際交流センター NEWSLETTER

Sep. 2022 Vol. 68

CotoQueイベント

2022年7~9月の期間中、5つのCotoQueイベントが開催されました。8月22日（月）に行った「フランス演劇をいっしょに楽しもう！」のイベントでは、フランスからの留学生カミーユさんが中心になり、9名の学生が交流をしました。長時間のイベントだったこともあり、お互いに様々な情報交換もできたようです。イベントに参加した学生の感想を紹介します。



私は奈良女子大学に在籍して5年目になりますが、学内での国際交流に参加したのは初めてでした。事務の方が主体になって、イベントを進めていくのかと思っていましたが、ほぼ留学生主体であることに驚きました。それにより、学生間で活発に交流することができたと思います。また、主催の留学生だけでなく、奈良女子大学に来ているほかの留学生との交流も深められたことがとても嬉しかったです。みんな初対面の状況でしたが、積極的な姿勢をお互いに持つことで、とても仲を深めることができたと思いますし、とても楽しく、有意義な時間になりました。今後またこのようなイベントがありましたら、ぜひ参加してみようと思いました。



初めて演劇を試し、とても楽しかったです。少しどうすればいいのかわからないが、カミーユさんは上手に教えてくれた。ありがとうございます。



先日ありがとうございました！イベントに参加してよかったと思います。初めての演劇だから、最初の時にうまくいけるかなと心配しましたが、カミーユさんからフランスのゲームを教えてもらって、みんなで楽しく遊んだおかげで、緊張感がだんだん解けたと感じました。そして、フランスの演劇を即興演出してみたら、面白くて最後まで楽しんでいました。また、新しく親切な人たちに出会ったので、また機会があれば、一緒に遊びたいと思います。



今回このようなイベントを企画・開催してくださり、ありがとうございました。初めてCotoQueのイベントに参加しました。参加前は雰囲気かわからず不安でしたが、皆さんが優しくフレンドリーに接してくださって、とても嬉しかったです。また、他国の文化をもっと知りたいという意欲が一段と大きくなりました。前半のミニゲーム、後半の演劇ともに、初めてのことばかりでとても楽しかったです！ありがとうございました。

Inside This Issue



CotoQueイベント



留学生からのメッセージ



キャリアデザイン・
ゼミナールB(37)



交換留学生（派遣）からの
メッセージ

留学生からのメッセージ

海外から留学にきていた学生が奈良女子大学で過ごした感想を寄せてくれました。

奈良女子大学で異文化交流を楽しむ

文学部

Nguyen Ngoc Anh (ベトナム)

大学に入学してから約3年間日本語を勉強してきた私は日本の文化に憧れを持ち、日本社会の諸問題に関心を持っている。ベトナムにいた時、日本のニュース、映画を通じて日本について勉強した。しかし、この知識をインターネットで勉強するだけではなく、本当の姿を感じ、自分の目や耳で体験したい。そのため、奈良女子大学で一年間勉強することを決めた。一年間奈良女子大学で勉強し、いろいろな外国人の友達ができ、いろいろな体験ができた。

秋学期に新型コロナウイルスの影響により、他の留学生が日本に入国できなかった。当時に授業もオンラインで行っていて、寮が空いていて、とても悲しかった。しかし、春学期になると、中国、フランス、イギリス、韓国、バングラデシュ、ロシア、インドネシアなど多くの国から留学生が寮に来るようになり、寮はとても賑やかになった。その時、ミニチュアの多文化世界に住んでいるような気がした。

奈良女子大学の先生方の熱心なご支援のおかげで、日本での生活を早く慣れてき、多くの貴重な経験をすることができた。特に、国際交流センターが留学生と日本人学生の交流会を毎週開催していた。そのおかげで、日本語でのコミュニケーションを練習する機会が増え、自然な日本語を身につけた。また、茶道や生花など日本文化の授業もよく行っていたおかげで、日本の伝統文化の美しさをより理解するようになった。

また、寮では定期的に文化交流会を開催しており、人々は自国の伝統料理を一緒に作ったり、一緒に食事をしたり、文化や生活についての話を共有したりしていた。それを通して、世界中のさまざまな文化について多くのことを学んだ、嬉しかった。私にとって、奈良女子大学での1年間は一生忘れられない貴重な記念である。留学が終了するまでいつも助けてくれた国際課の職員の皆さんと、国際交流センターの職員の皆さんと指導先生、チューターさん、留学中に会った全ての方々に感謝の気持ちを伝えたい。本当にありがとうございました。



Life at NWU

EBERSTEIN Camille-Alice

Exchange student (France, Université de Paris)

My life at NWU

Ever since I was offered a university exchange to Japan, I knew where I wanted to study. I needed a place steeped in history and steeped in traditional Japanese culture that would allow me to study what I love most: ancient history and beliefs/religions. Having already studied a lot of Japanese history in France, I knew that Kansai was the ideal region. Nara seemed to be the perfect city for my studies, as it is human-sized (I thought it was important to do my very first exchange abroad in a city that was not too big) and, just as I dreamed, full of history.



The Nara Women's University seemed to me to be a peaceful place where there would not be too many people, and where I could more easily create a small social circle and ask questions to the teachers if needed. It was also a university that interested me because of the range of subjects it offered. I was delighted to be able to study history and culture, literature, a new language (Korean) and even anthropology (something I had long dreamed of learning).

As I thought, it is a very livable university. The campus is very nice, peaceful, I was happy to just sit on a bench and enjoy the sunshine, sit in the cafeteria to work or stay at the Dear Deer café to eat a delicious parfait. The fact that the university is not too big made me feel good, like a second home.

I was immediately very well received and followed, whether by the administration, the teachers or my tutor, Alisa. This helped me to feel good, I really had the impression that I was cared for and concerned about (something that is not possible in Paris because of the number of students). It was the first time I had left France for so long and had to live on my own, I was afraid it would be difficult, but thanks to everyone, it went incredibly well. I never felt homesick.

I was also able to take advantage of the clubs at the university. Thanks to this, I was able to fulfill a dream and practice koto.

The classes themselves were very enjoyable to attend. Since there were often not many students in the classes, it was easier to talk with the teacher and participate. I was obviously a bit impressed at first to be taking classes completely in Japanese on quite specific subjects (奈良学,文化人類学概論, 韓国語), but my teachers did everything to make sure I understood, which was very reassuring. I could also count on Alisa if I missed something.

And in addition to the courses, I was able to take part in activities within the university, such as the trip to Ise jingu or the theatre event which I was very happy to organise!

This semester was very enriching for me, both on an educational and human level. I learned a lot about Japan through the course content, but also by being immersed in a university like any other student.

My life in Nara

I first discovered the city thanks to my tutor and friend, Alisa. Thanks to her, I was able to discover the university, but also Nara and its surroundings. We saw together the cherry blossoms of the Saho river, the Todaiji, the Nigatsudo, a small animal café, Osaka Namba, the Hannya-ji, a kabuki show, the Gion matsuri, the lantern festival,... I thus discovered various aspects of life in Nara.



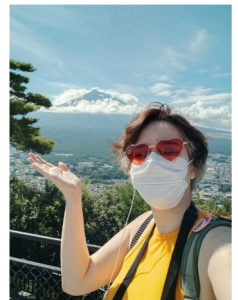
I also discovered the city by myself by going out very often and walking without defining a destination.

That's how I discovered the botanical garden, the Kasuga-taisha (my favourite sanctuary), the Nara park,... It's a city just like the university; very pleasant to live in, peaceful, and where people are adorable. I was afraid that being a foreigner, I would be treated differently. But in Nara, people spoke to me directly in Japanese instead of English, they didn't look at me in a bad way. It was even better for me, I felt like I was part of the city.

I sincerely hope to be able to come back one day and continue exploring Nara. Six months is not enough!

My life in Japan

My life in Japan was obviously strongly linked to my life at NWU and Nara. I felt at home there. I was delighted to discover such an amazing country, and that everything went so well. Studying didn't stop me from travelling; I was able to go and discover Japan with my friends or by myself. It was a real dream for me. I discovered Kyoto, Osaka, Kobe, Hiroshima, Tokyo and Mount Fuji. Besides allowing me to see other aspects of Japan, these trips allowed me to learn more about the different local and regional cultures.



I am sad that I could not stay longer, as I would have gladly studied for a full year at NWU and discovered more of this incredible country and its equally extraordinary people. But I will return to France with many memories and no regrets about my time here.

Thank you all for allowing me to make my dream come true and for accompanying me during these six months. I hope to see you again to live even more adventures with you!

キャリアデザイン・ゼミナールB (37)

2022年度前期のキャリアデザイン・ゼミナールB(37)国際グループワークAでは、『「奈良(女)と海外とのつながり」をCotoQueで表現しよう!』のテーマで作業を行いました。CotoQueのスペースで流したりオンラインで配信する動画作成は「ジギスカンチーム」、CotoQueの窓の装飾は「かつ丼チーム」、CotoQue室内の装飾は「タピオカチーム」が担当しました。最後の報告書では、メンバー紹介やチーム名の説明、授業のそれぞれの回の作業内容、発見、他の奈良女生へのメッセージなどをまとめました。HP「“ならじょ”から留学!!」でも紹介していますので、ぜひご覧ください!

HP「“ならじょ”から留学!!」のCotoQueページは、こちらから



交換留学生(派遣)からのメッセージ



交換留学で海外の協定校へ留学していた学生が帰国し、感想を寄せてくれました。みなさんも交換留学に挑戦してみませんか？

コロナ禍での貴重な経験

文学部人文社会科学科4回生 河原 瑞穂
派遣先：レスター大学（イギリス）

私は2021年10月から2022年6月まで、イギリスのレスター大学 政治・国際関係学部にて交換留学しました。帰国してから3ヶ月ほど経ちますが、現地の友人とは連絡を取り続けており、未だにレスターが近い場所のように思えます。この留学期間はコロナ禍というイレギュラーな状態から始まり、ビザ申請や渡航など、全てが前例のないまま手探りで進みました。ビザが渡航2日前に下り、授業当日に現地に着くなど予想外のことが多々あり前途多難でしたが、そのひとつひとつの経験が私を成長させてくれたように思います。

私は大学で専門の社会学やジェンダーを学ぶ中で、それまでずっと抱いていた「国際関係学をきちんと学びたい」という思いを捨てきれずにいました。そんな時に交換留学について目にする機会があり、海外で学ぶことには以前から興味があったため、4年生ではありましたが思い切って応募をして、学内の代表として機会をいただくことができました。機会を掴めたと思ったのも束の間、これまで短期留学の経験はあったのですが実用的・専門的な英語には自信がなく、IELTSの結果も思うように伸びなかったため、Pre-Sessional Courseを受講してか



友人のフラットでパーティー



フラットメイトに祝ってもらった誕生日パーティー

ら入学許可をもらい、留学が実現しました。実際に留学開始後にも、セミナー内の発言やエッセイの課題に取り組むときに聞き慣れない専門用語に苦しみました。しかし、来たからには多くを学びたい気持ちが強かったため、クラスメイトと共に分からない箇所の勉強会をしたり、教授に個別で質問したり、大量のリーディングの課題に朝まで取り組むなど、言語の壁がある分必死に努力をする日々でした。レポート課題で日本の大学のS相当の評価をいただき、教授から「面白い着眼点の議論だった」とコメントをもらったときは大きな達成感がありました。



節分に友人と恵方巻き

また、勉強に真面目に取り組むことはもちろんですが、コロナ禍の難しい時代にせっき海外で学ぶ機会を得られたのだから、留学期間は現地で「生きる」ことをしっかり経験したいと考えて渡航しました。地理的に近いウクライナでの戦争について議論する特別セミナーに参加したり、友人と旅行したり、パーティーに参加したり、他国の留学生の友人



ハリポッターの撮影スタジオ

と自国の料理を作りあったり、「今ここでしか経験できないこと」に積極的に取り組みました。留学前はかなり苦労したこともあってか気持ちが大きくなっていった私は、これまでの自分だと考えられないくらい様々なことを行動に移せたように思います。レスターで知り合った友人とは、互いの国でまた会う約束をしたり政治についての話題を交換し合ったり、かけがえのない素晴らしい人間関係ができました。きっと、これからも良い関係でいられると確信しています。

振り返ってみるとこの留学は、渡航前に思っていた「勉強漬けの大変な一年」とは異なり、大変なことや辛いこと以上に、貴重な経験、新たな発見ができる喜びが大きく、経験値も人間としての深みも増すことができたように思います。素敵な人にも大勢出会い、彼ら/彼女らとのつながりが世界の広さを教えてくれました。奈良女子大学の代表としてレスターで学ぶ機会をいただけて、そして留学をするという選択をして心の底から良かったと思っています。今後も多くの先輩の皆さんが留学を通して世界を広げ、多くを学んでくださることを期待しています。ぜひ、思い切って一歩を踏み出してみてください。応援しています。

センター及び国際課の活動

- 7/20 CotoQueイベント「教えて!交換留学体験談」
- 7/21 CotoQueイベント「浮見堂へ散歩」
- 7/25 CotoQueイベント「韓国語オープントーク」
- 7/25~28 日本語オンラインプログラム「そらみつ」
- 8/20, 21, 27 ビジネス日本語オンライン集中講座
- 8/22 CotoQueイベント
「フランス演劇をいっしょに楽しもう！」
- 8/22~26 夏休みオンライン研修「セブ」
- 9/5~9/9 夏休みオンライン研修「オーストラリア」
- 9/12~16, 20 留学生のための課題解決型インターンシップ
- 9/12~30 夏休みオンライン研修「南京大学」
- 9/28 CotoQueイベント「Bangladeshの大学生と交流！」



奈良女子大学 国際交流センター

NEWSLETTER Vol.68 2022年9月発行

〒630-8506 奈良市北魚屋東町

TEL: 0742-20-3736

Email: iec@cc.nara-wu.ac.jp